

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「枕草子 へつべしモノ」問題①

うつくしきもの。瓜に^①かき^アたる児の顔。すずめの子の、ねず鳴き^②するに^③踊り来る。

二つ三つばかり^イなる児の、^④急^ぎて^⑤這^ひくる道に、いと小さき塵の^⑥あり^ウけるを目ざとに見つけて、いとをかしげなる指に^⑧とらへて、大人などに^⑨見せ^エたる、いとうつくし。

頭は尼そぎ^オなる児の、目に髪の^⑩覆^へかるを^⑪かきは^⑫やらで、^⑬うちかたぶきてものなど見^キたるも、うつくし。

大きには^⑯あら^クぬ殿上童の、^⑯装束^ききて^ケられて^⑰ありくもうつくし。をかしげなる児の、あからさまに^⑯いだきて^⑯遊^ばし^⑯うつくしむほどに、^⑯かい^つきて^⑯寝^コたる、いとらうたし。

雛の調度。蓮の浮葉のいとちひさきを、池より^㉔取りあげ^サたる。葵のいとちひさき。なにもなにも、ちひさきものはみなうつくし。いみじう白く^㉕肥^えしたる児の二つばかり^スなるが、二藍の薄物など、衣長にてたすき^㉖結^ひせたるが^㉗はひ出で^ソたるも、また短きが袖がちなる着て^㉙ありくもみなうつくし。八つ、九つ、十ばかりなどの男児の、声はをさなげにて

書^㉚読み^タたる、いとうつくし。

鶏の雛の、足高に、白うをかしげに、衣短なるさま^㉑して、ひよひよとかしかましう^㉒鳴^きて、人のしりさきに^㉓立ちて^㉔ありくもをかし。また親の、ともに^㉔連れて^㉕立ちて^㉖走^るも、みなうつくし。雁の子。瑠璃の壺。

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「枕草子 うつしきもの」 解答①

カ四用 存続

サ変体 力変体

うつくしきもの。瓜に^①かき^アたる児の顔。すづめの子の、ねず鳴き^②するに^③踊り来る。

二つ三つばかりイなる児の、^④急ぎて^⑤這ひくる道に、いと小さき塵の^⑥あり^ウけるを目ざとに

カ下二用 断定 ガ四用 カ変体

ハ下二用

カ四用 サ四用 完了

ハ下二用

カ四用 サ四用 過去

見つけて、いとをかしげなる指に^⑧とらへて、大人などに^⑨見せ^エたる、いとうつくし。

マ上一用 存続

断定

頭は尼そぎ^オなる児の、目に髪の^⑩覆へかるを^⑪かきは^⑫やらで、^⑬うちかたぶきてものなど

マ上一用 存続

見^キたるも、うつくし。

ラ変用 打消

タ下二用 受身

カ四用 カ四用

タ下二用

カ四用 完了

大きには^⑯あら^クぬ殿上童の、^⑯装束^{きたて}ヶられて^⑰ありくもうつくし。をかしげなる児の、

カ四用 サ四用 マ四体

タ下二用

カ四用 カ四用

タ下二用

カ四用 完了

あからさまに^⑯いだきて^⑯遊ばし^⑯うつくしむほどに、^⑯かいつきて^⑯寝^コたる、いとらうたし。

ガ下二用 完了

ヤ下二用

存続

ダ下二用

存続

断定

雛の調度。蓮の浮葉のいとちひさきを、池より^⑯取りあげ^サたる。葵のいとちひさき。なにも

ハ四用 存続

ダ下二用 存続

ヤ下二用 存続

断定

なにも、ちひさきものはみなうつくし。いみじう白く^⑯肥^えしたる児の二つばかり^スなるが、

カ上一用 カ四体

ハ四用 存続

ダ下二用 存続

ヤ下二用 存続

断定

二藍の薄物など、衣長にてたすき^⑯結ひ^セたるが^⑯はひ出で^ソたるも、また短きが袖がちなる

カ四用 存続

マ四用 存続

書^⑯読み^タたる、いとうつくし。

サ変用

カ四用

タ四用 ラ四用

カ四用

カ四用

鶏の雛の、足高に、白うをかしげに、衣短なるさま^⑯して、ひよひよとかしかましう^⑯鳴^きて、

人のしりさきに^⑯立ちて^⑯ありくもをかし。また親の、ともに^⑯連れて^⑯立ちて^⑯走るも、みな

うつくし。雁の子。瑠璃の壺。